

ケントウ 賢徳 金澤眞宗東派西方寺の住職。淨月庵と號した。文政元年以降高倉學寮の寮司となり、天保元年擬講に進み、同十四年正月寂した。

ケンドウ 顯道 ↓ゴアンケンドウ 僧庵 顯道。

ケンドウカイシヨ 絹道會所 絹道役所ともいふ。能美郡小松に於ける製絹業者の組合事務所で、その主任を絹道組頭といひ、配下に納肝煎などがあつた。元祿十一年の文書には、絹道組頭村井屋又三郎・村井屋庄左衛門・山上屋吉右衛門等の名が見える。文政の頃より小松の製絹業漸く衰へ、嘉永六年八月遂に絹道會所を廢止した。

ゲントク げんとく 藩政の時、士人の下僕にして、草履取・槍持等の特殊任務を有せざるものをいうた。即ち最下級の僕にして、古法令にあらしこといふ者之に當り、それをげんとくといふは加賀藩のみの名稱らしい。

ケントクイン 謙徳院 加賀藩主第八代前田重熙の法號。詳しくは謙徳院紺市尙古大居士。

ケントクコウオヤワ 謙徳公御夜話 別名謙徳公夜話録 重熙公御夜話 苗秀秘録。前田重熙の談話を記したもので、著者は志村五郎左衛門である。又異本謙徳公御夜話は、天明二年七月小堀牛右衛門が前田治脩の命を奉じて、先侯重熙の行狀に關し記憶する所を書いたもので、僅かに十一條の片々たるものである。

ケントクコウネン 謙徳公年譜 一冊。前田重熙が延享四年正月繼統してから、寶曆三年四月卒去までの年譜である。

ゲントクザキ 玄徳崎 羽咋郡濱田の部落。西北方に在る岬。

ケントクジ 見徳寺 石川郡下柏野の北方五六町に大御堂といふ遺址があり、笠石と稱する大石も存する。古へ見徳寺のあつた所だと傳へるが、その文字は定かでない。

ゲントクジ 元徳寺 石川郡鶴來領の中に元徳寺の址と稱へる所がある。元徳寺は蓮如の子蓮僧の開創した願得寺を誤り傳へたものである。

ゲンニン 玄忍 石川郡の一揆の長。玄任とも書かれる。永正四年玄忍越前の朝倉貞景を討たんが爲、坂北郡坪江郷の帝釋口に向かひ、八月廿九日干戈を交へたが、敗郎して將卒三百人悉く戦死した。玄忍の子次郎右衛門の黨を、亦玄忍組といひ、享祿四年大小一揆の争に、初めは小一揆に屬したが、後に大一揆の與黨たる朝倉宗滴に通じて、小一揆の爲に今深川附近に破られた。又弘治元年宗滴が加賀に進入した時の戦には、玄忍十人衆の語が見える。元龜・天正の一揆の首領に杉浦寛岐法橋玄任があるが、これは又別の玄任である。

ゲンバガハ 玄蕃川 金澤川上覺源寺の尻地なる岸川の川除に水戸口を附けて岸川より用水を取つてあつた。油車屋源兵衛なる者後にいふ油車の地に水車を設けた時、倉月用水のみでは水勢弱きため、更に岸川の水を合はせ、それを百姓町に通じて水車に注いだのである。故にこの水戸口を油堰と呼び、用水を源兵衛川と稱したのを、後人誤つて玄蕃川と呼んだといふ。

ゲンバマチ 玄蕃町 金澤の町名。もと津田玄蕃の下屋敷で、所屬の諸士こゝに住したが、明治四年四月戸籍編成の際玄蕃町一番丁・二番丁・三巡りとした。

ゲンバマツ 玄蕃松 金澤馬場町河合氏の邸地にあつて、老樹であつた。昔佐久間玄蕃の調馬場のあつた頃の遺木であるといふので、玄蕃松と稱すると言ひ傳へたが、明治廢藩の際伐採せられた。

ケンブウ 見風 ↓カハヒケンブウ 河合見風。ケンブク 元服 藩政の時、士分に在つては幼時振袖の衣を着し、頭髪の前髪を分けたが、十五歳以上に達する時は袖下を留めて短くし、額に角入を行ひ、次いで更に元服を加へた。元服とは前髪を去り、頭上を豎に長く幅一寸許に剃り廣げるをいひ、その際文武に勝れた士に依頼して諱を授けられ、祝賀の式を擧げた。結髪は士分に在つては元結十二三筋を用ひ、四十歳以上に至る時は四筋以上とし、丸髻・長髻等の種類があつたが、御歩は幅四五寸に廣く剃り、丸髻に限り、又足輕以下は元結二筋に限られた。町人・百姓の元服にも、また之に准し簡單な祝儀を擧げた。

ケンブツドウ 見佛洞 珠洲郡布浦領の比那に在る。俗傳に、見佛上人が奥州松島から來り、毎月十日玆に居て、西行に逢ひ問答をしたというてゐる。この事は撰集抄に記載してあるが信じ難く、元亨釋書の見佛傳には書いてない。

ゲンベエジマ 源兵衛島 石川郡山島郷に屬する部落。

ゲンボウイン 源法院 金澤主計町に在つて、臨川山と號し、眞言宗に屬する。元和三長清之を建立したといふ。綿津屋政右衛門自記に、天保年中先に積雪の爲押潰されたのを、竹下武右衛門・酒井和左衛門などの盡力で再建したと見える。

ケンボウジ 建法寺 河北郡小松に在つて、眞宗東派に屬する。もと道場で在つたが、明治十三年四月寺號の公稱を許された。

ケンボクイコウ 劍北遺稿 一冊。瀬尾劍北著。漢文十二篇と詩七首を収めてある。劍北の稿は頗る多かつたといふが、家に留めるもの僅かにこれだけであつたのを、その歿後大正二年秋、遺子英女史が版行せしめたものである。

ケンミヨウ 賢明 鹿島郡七尾眞宗東派西勝寺の住職であつた。天保十一年以降高倉學寮の寮司となり、嘉永二年擬講に進み、慶應元年寂した。

ゲンモン 玄門 金澤淨土宗玄門寺の開山。玄門は上蓮社向譽といひ、一に直鈞と號し、俗姓は花村氏、甲斐の人である。智譽上人の室に投じて剃髮受業し、遂に其の法を嗣ぎ、金澤如來寺に住し、玄門寺を開いて隱棲とした。萬治元年二月十五日寂。

ゲンモンジ 玄門寺 金澤下小川町に在つて、孤峰山と號し、淨土宗に屬する。貞享二年の由來書に、當寺は寛永十年玄門和尚の開

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

が、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。

たが、明和六年三反田村から手取川が切れて、源兵衛島を流したから、今の所に移つたと記してゐる。